

京都大学瀬戸臨海実験所振興會

水族館月報

No. 82

1959. 6月 (7月5日)

録 事

京大の会計検査のためのびのびとなった振興会委員会の第8回総会が6月6日午前9時より特研会議室で開催された。(詳細は別記)。

同日午後、京大横田事務局長の要請による京大詰新聞記者団10名が到着。午後2時より原田研究員の案内で観光バスにて白浜観光。夜一同大学副委員も同席して寄宿舍で沖すきの会食をした。

6月7日午前、水族館改築の具体化を6日より未所中の京大山本技術課長と協議した。午後明光バス会社と観光等に関する契約の更新につき折衝する予定だったが先方不在のため一応見送り。代って櫻井番所山植物園長を召致し、昭和29年締結の契約書を全面的に改めることを提案し、承認を得た。(新取決書は次号にて報告の予定)。

6月の声を聞くとさすがに観光客が減ってきた。しかし7月15日から待望の紀勢線が完通するので、観光客の倍増が予想され、また観光事業団体の競争の激化がまともに水族館の経営に響いてくるものと思われる。

そのやさきの、8日白浜観光会館で昭和34年度白浜観光協会総会が開催された。内海常務委員が振興会を代表して出席し、従来番所山植物園を通じて納められていた協会費の水族館負担金は本年度より免除され、水族館よりは適正額を寄付することに改めることが席上認められた。なお、本会委員の峰尾繁氏と本会監事の岩城一治氏はそれぞれ協会会長及び副会長に再選された。

6月9日、NHKテレビの細入昭氏他2名テレビ番組の「イセエビの生態」の取材のため来所、同時に日本視覚教材株式会社の西本祥子氏他3名も水族館の水槽内動物や磯採集の状況撮影のため来所された。

6月15日、午後5時35分NHKテレビ番組みんなの科学「イセエビの生態」に説明役として宮地会長、原田研究員が出演した。

原田研究員の英国留学は7月20日横浜出港のフランス船でまずホンコンに向い、そこでイギリス船に乗りかえて英国に渡航することに決まった。

6月16日、国立白浜温泉病院で職員全員定例の身体検査を受けた。

第8回委員会総会記録

日時 昭和34年6月6日 9時～14時30分
場所 京都大学瀬戸橋実験所 特研会議室
出席者 宮地会長、南委員、峯尾委員、池委員、橋本委員、内海委員、崎岡委員、
山路委員、市村委員、浅野監事(新任)、生駒監事、岩城監事。
以上 12名 書記：原田研究員

配布資料 33年度決算書
第8回委員会総会議案
34年度予算案
海の生物生態しゃしん集 第2集

記

1. 歳表送付、歳率の決定
 - イ. 各協会歳表に送付さる
 - ロ. 歳率案の通り決定
2. 委員の交代及び後任の推薦
 - イ. 本田監事の転出にともない4月に慰労金25,000円を贈ったことについて承認
 - ロ. 本田監事の転出にともない後任として京大経理部長事務官浅野清聖氏を監事に推薦決定
 - ハ. 委員及び監事は33年9月にすでにその任期がきれているのに対し、あらかじめ全員の留任と決定
 - ニ. 内海委員から常務委員兼任の申出があり、それに対しては実験所内で適宜さめるとに決定
3. 1958年経理報告及び事業報告

内海常務委員から、とくに一昨年できなかった養魚缸の整備とポンプ室及び新しい塩化ビニールポンプを使った揚水設備の改善の結果が報告された

4. 監査結果報告

- イ 業者よりの会計書等とくに免積・請求などの期前について不備なものがある。
- ロ 前貸財産の商品は評価々格を記載すること。
 - これに対しては討議の結果評価のむづかしい図書等もあり事務的にも煩雑なので購入価格を記載することに決定。
- ハ 旅費退却積立金についてはその通帖の予金利子を積立金そのものを含めるか利子収入の中へ入れるかどちらかにするように。
 - これに対して予金利子はすべて利子収入に入れて、積立金とは別にすることに決定。
- ニ 餘りがきの残額数を財産目録に入れること

5. 1959年度予算

常務委員から予算案の説明あり、これに対し次のような意見討論が交わされた後原案通り可決

- イ 常務委員手當を値上げする
 - ロ または常務委員の手当として秘書のようなもの或いは事務補助（実験所の仕事を手当う人）をやとってはどうか
 - ハ それよりは資金前渡金変更できる経理管理事務者をやといたい。
 - ニ 実験所内部では経理事務担当者は水族館改築後にやとうことにし、さしあたり技術補佐員をやとうこととしていた
- 以上イ～ニの意見をまとめて結局2人（そのうちの1人は技術補佐員）をやとうことを（予算案もそのようにできているので）承認、実際にどのような人をやとうかは実験所内部できめることになった
- ホ 観光協会には33年度は実行されなかったが、34年度からは番祈山植物園とは別にそれに相当する応分の金額を寄附する（諸雑費から支出）ことを確認
 - ヘ 煙海の浜の掃除を町側でやることが要望された

6. 水族館改築計画の具体化

特に煙房さげ（山本宗大技術課長の説明のもとに）、とくに資金の調達方法を密議した。

- イ. 工事費の概算見積額は1700万円で結局700万円の不足である。これは担保のいらない方法で銀行から借りるようにする。
 - ロ. 2階の内装をあとまわしにすれば230万円程度は節約になる。
 - ハ. 現在標本室となっている建物取りとわしの手続きを早くすすめ、できるだけ早く着工することを確認
7. 明光バス、番所山植物園との観光券取扱いに関する契約の更新条件の審議
- 明光バス及び番所山との関係は三巻協定にもとづく観光券の支拂いが滞って、契約の改訂などの必要を生じたので、協定の無条件継続に異議を申立て、4月1日以後そのままになっている。このような状態に対し、とにかくトラブルを起さないように協定は続け、ただし支拂いの延滞に対しては罰則規定をもうけることにして、明光と交渉することになった。
- その罰則案としては、i) 国税と同じような延滞利息をとる方法、ii) 支拂いが延滞した分に対しては手数料を掛けないなどの方法が考えられた。
8. 番所山動植物園との連帯券発売に関する契約改訂の審議
- 番所山との契約はサービス関係をすべて手数料(金額)の形で評価してきめる。
- 1案として i) 水族館の入口で切り取る明光バスとの連帯観光券の植物、動物園の分をもあわせて切り取る手数料を3% ii) 水族館窓口で発売する植物園入場券の発売手数料を7% iii) 交通公社の同遊券の植物園の分をもあわせて取扱う手数料を3%として、植物園長と交渉することに決定。
9. 水族館の職員増員と原田研究員渡英中の処置
- イ. 水族館職員増員は予算案の審議中に決定した通り。
 - ロ. 原田研究員は現職のままの海外出張としてその間の給与は国家公務員の規定通りとする。
 - ハ. 高松史朗京大大学院学生は原田研究員の不在中に限りその職務を代行することに決定
10. 振興会研究奨学生募集要項の改訂
- 奨学生はいままで要項で募集したところ、34年度は応募者がなかった。募集範囲をひろげたり、実験所である程度の仕事を手伝うことなどを除いてはどうだろうかという提案に対し、募集範囲を京大全体にまたは全国にひろ

げるなどの意図もでたが、結局次のようなことになった。

1. 京大理学部内において募集する。
2. 他の一般の奨学資金と同様に応募者の選考は理学部内における従来の方法に従う。
3. 研究目的を“海洋に関する研究”とする。
4. 月額8000円

以 上

業 務 概 況

◎ 6月の入場者数

区 分	大 人		小 人		合 計		
	本月分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計	
水族館発売	個人	5311	26593	196	1903	5507	28496
	団体	13227	41295	—	—	13227	41295
交通公社発売		3475	16546	—	—	3475	16546
明光バス発売		10698	58842	115	1199	10813	60041
合 計		32711	143276	311	3102	33022	146378
無 料	白浜口駅長他					7	258

団 体 : 一般 190組、学生 9組 計 199組

◎ 6月の事業収入

(今年度累計)

観覧券売上金

窓 口 発 売	323,945	1,213,835
交通公社クーポン	56,071	270,016
明光バス観光券	93,000	930,000*
予金・積立金利息	—	234,035
雑 収 入	1,105	41,265
魚 類 拂 下	600	800
絵はがき拂 下	12,880	37,800
計	1,324,601	2,727,751

※ 明光バス観光券未収分 動植物共通大人券 21586枚
 全 上 小人券 3159枚
 植・水共通大人券 8枚

◎ 6月の支出

水族館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	155,035	330,860	期不手当支給
会 議 費	58,770	63,064	委員会総会費用
備 品 費	19,500	19,500	ベンチ、ゴミ箱
消 耗 費	14,673	43,976	
専 業 費	51,727	176,432	
維 持 費	42,610	42,610	水呑場設置
其 他諸経費	42,396	83,846	京大記者会見接待
積 立 金	122,430	544,305	
合 計	507,141	1,304,593	

実験所経費

費 目	金 額	累 計	備 考
研 究 費	—	70,000	
奨 学 金	—	12,000	
備 品 費	36,237	114,437	日立オート扇風機
消 耗 費	—	—	
刊 行 費	—	—	
役 務 費	22,550	22,550	時岡官舎風呂場修理
合 計	58,787	218,987	

博物館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	42,510	90,610	期末手当支給
備 品 費	—	15,000	
消 耗 費	—	—	
役 務 費	1,860	1,860	流し修理
合 計	44,370	107,470	

臨時費

支出なし

支出合計

(今年度累計)

水族館経費	507,141	1,304,593
実験所経費	58,787	218,987
博物館経費	44,370	107,470
臨時費	—	50,000
計	610,298	1,681,050

◎ 6月末現在高

前月よりの繰越	332,398
今月の収入合計	1,324,601
今月の支出合計	610,298
現 在 高	1,046,701

◎ 前年度との比較

	1958	1959	増 減
入 場 者 数	30664	33022	+ 2358

水族館記事

- ◎ 水族館入口傍に観客のために水呑場を設置し、裏口公衆便所の手洗場を広く改造した。
- ◎ 南水槽室の窓際の21個の水槽のガラスが長年月の向相当傷がつき見にくくなったので、ガラスを順次強化ガラスに取りかえ、併せて水槽底にセメントを塗って勾配をきつくし水はけをよくすると共に、小石なども多量に底に敷きつめる必要のないように改めた。
- ◎ 6月に入って、白臍病が急激に広がり、ニザダイ、フエフキダイ、マダイ、ノミノクチ、アカハタ等が続々死んでいった。水槽を中性洗剤で洗ったり、干して壁面をバーナーで焼いたり、或はメチレンブルー、塩酸キニーネ、マーキュロクロム、殺菌灯などを使用して殺菌加療を試みたが、これといって顕著な効果を見ず月末に至り、白臍病もやや衰えてきた。丁度此の頃、海水中には異常に多量の燐酸塩を検出することが多かった（布施委員）ことを考えあわせて、今後、水質の変化と白臍病の発生の関係を総合的に調査し、白臍病の蔓延の予防対策を講ずることも必要である。白臍病に犯された魚の治療試験（高松）の結果は資料を参照されたい。
- ◎ 7日トビエイが入槽したが12日に死亡。
- ◎ 20日島島へ磯採集に行った学生が採集した3匹のイザリウオを水槽に入れたが、数日をへて次々と死亡。内2匹は腹側に寄生性撓脚類の一種が約10個体づつ寄生していた。
- ◎ 22日番所鼻付近のタイドプールでギンユゴイ、メジナ、オキナメジナ、カゴカキダイ、オヤビツチャなどの小魚を採集し入槽。
- ◎ 24日夜、田辺港内のエビ潜網漁船からイシガニ、シヤゴなどを入槽。
- ◎ 30日17時30分抱卵中のイゼエビの1匹が卵を孵化させた。
- ◎ 6月30日現在、観覧水槽に収容飼育中の動物は総計122種、920個体以上で、その内訳は次の通り。

カイメン類	2種	イソギンチャク類	7種
ヒドロ虫類	1 "	イシサンゴ類	7 "
ウミトサカ類	2 "	スナギンチャク類	1 "
ヤギ類	2 "	ハナギンチャク類	1 "

カブトガニ類	1種	ウミシタ類	3種
エビ類	7種	ヒトデ類	6種
ヤドカリ類	3種	ウニ類	7種
カニ類	11種	ナマコ類	5種
アメフラシ類	4種	ホヤ類	1種
二枚貝類	2種	軟骨魚類	5種
巻貝類	2種	硬骨魚類	38種
タコ類	1種	カメ類	3種

資 料

白臭病治療試験結果

(高松記)

1. エビスタイ 3匹の白臭病を治すために、マーキュロクローム溶液を使用した結果は次の通りであった。
 - 14日：約20000分の1の溶液中に魚体を10～15分間浸して後新しくしい水槽に入れた。
 - 16日：処理前の状態に比較して白臭が少なくなった。
 - 17日以後：処理前よりひどい白臭が現われた。
 - 20日：再び約20000分の1の溶液を新しく作り、今度は20分間処理した。3匹中2匹は処理後体を横にして仮死状態のまま翌21日に至り、
 - 21日：2匹が死んだ。
 - 29日：他の1匹も死んだ。
2. マタイの仔10匹の白臭病の治療には、マツダ殺菌灯(GL-15, 19W)を水槽上部から18日～20日にわたり照射してみた。20日には経過良好のように思われたが、21日以後は再び以前にもましてひどくなった。20000分の1のマーキュロクローム溶液を約20cc毎日水槽内(NO. 34, 容量約1トン)に入れたが効果なく25日全滅した。
3. 最近マーキュロクロームによる海水魚の治療結果が二三の他の水族館より報告されたが、本水族館では以上の通りであり効果は期待されない。従来経験ではメチレンブルー療法が最も効果があるように思われたが、尚操作上検討を要する点も多々残されている。 —(22)—

- ◎ 6月の気象 (9時観測)
南水槽室 (水温比重はN0.25水槽)

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数(12)	3	3	6
室 温(°C)	$\frac{20.9 \sim 23.6}{22.5}$	$\frac{20.4 \sim 23.9}{22.3}$	$\frac{23.2 \sim 27.2}{24.8}$
水 温(°C)	$\frac{21.10 \sim 21.96}{21.54}$	$\frac{20.64 \sim 22.48}{21.70}$	$\frac{22.60 \sim 24.19}{23.43}$
比 重(σ_{15})	$\frac{24.63 \sim 25.39}{25.01}$	$\frac{24.00 \sim 24.83}{24.50}$	$\frac{24.64 \sim 24.85}{24.71}$

取入口

水 温(°C)	$\frac{21.25 \sim 22.73}{21.97}$	$\frac{24.85 \sim 25.39}{25.14}$	$\frac{22.92 \sim 25.01}{24.05}$
比 重(σ_{15})	$\frac{20.90 \sim 22.49}{21.98}$	$\frac{24.72 \sim 25.69}{25.35}$	$\frac{24.68 \sim 24.94}{24.83}$

来 訪 録

- 6月3日 和歌山県観光連盟西野和彦氏(和歌山県の観光パンフレット発行のための取材)
6月3日 大阪ガス株式会社福利部松尾正武、西本亮政氏(水族館見学)
6月16日 近畿日本ツーリストK.K和歌山営業所長森下芳郎氏(観光契約の下交渉)

昭和34年7月5日 (NO. 82)

編集兼
発行所

内海 富士夫

発行所

藤原通 奥野 駿河 藤原 会
和山 奥野 白旗 内
瀬之 橋 家 温泉 515
(Tel. 白)